

---

# 魔法少女リリカルなのはstrikers ~ 創造者の夢物語 ~

†ユウト†

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは *strikers* 〈創造者の夢物語〉

### 【Nコード】

N7680M

### 【作者名】

十ユウト十

### 【あらすじ】

世界は変わる、創造者によって。青年は、時空に巻き込まれとある神に力と使命を授けられた。舞台は魔法の世界。さあ、夢物語が今はじまる。

ブローグ1 退屈な日々、望む超常(前書き)

はじめまして、ユウトです

駄作ですが、よろしくお願いしますm ( ( m

感想などお待ちしています

では、どうぞー！

## プロローグ1 退屈な日々、望む超常

どうもみなさん、俺の名前は坂井 暁。

普通の高校3年の18歳、趣味はアニメや平成仮面ライダー。

アニメはなのはが一番だな。見ごたえがありすぎ。

仮面ライダーは昔から好きでよくモノマネもしたよ。

そんな俺も最近、変わりばえのない毎日に飽きていた。

授業に面白味もないし、部活も入ってはいるが幽霊部員みたいなもんだ。

俺はいつしか非日常を求めた。

そして今日も始まる。

変わらない日常に、絶望しながら……

プロローグ1 退屈な日々、望む超常（後書き）

文才がないもので……

プロローグはふたつにさせてもらいます

プロローグ2 はじまりの鐘、旅立つ創造者（前書き）

長いです、駄文です

それでも許せる方、どうぞ！

## プロローグ2 はじまりの鐘、旅立つ創造者

学校ほど、退屈な所はない。

と俺は信じている。

友達と話すのは退屈が紛れるが、それ以外は無意味だ。

だから授業中は常に寝ている。

夢の中の方が非日常を体感できるから、勉強より数倍ましだね。

だが、最近の夢は誰かが俺を呼んでいる気がする。

何か切羽詰まった感じだ声の正体を知るまえにいつもの起きてしま  
う。

「なんなんだろうな、案外異世 界への招待か？」

冗談半分、本気半分な感じで呟く。

後にこれが本当になるとは夢にも思わなかった。

4限目も終わりに昼休みするとき、俺はアニオタ仲間といっしょに昼飯  
を食べていた。

まあオタといってもムサイ奴らじゃないから周りからは何もいわれ  
ないがな。

「暁、お前アニメの世界ならどこに行きたいんだ？」

「なのはだな。魔法やデバイス　なんか使ってみたいな」

と答えると、賛同の声が聞こえた。

そのまま談笑つづけていると……

リイーン……………

「な、なんだこれ！」

声に反応して、後ろをふりかえると空間が割れていた。

俺は待ちに待った非日常に胸を高鳴らせながら空間に近づく。

割れた空間はまるで俺を誘うかのように広がり、扉が出てきた。

その瞬間、俺は夢の答えはここにあると感じた。

「おいつ、暁！何してる！早くこっちにこい！」

啞然とする教室のなかで、誰かが呼ぶが気にしない。



「悪いな、俺はこんな生活に飽きてた。何があるか知らない が行かせてもらっぜ」

そう言っただアを開けると、暗い空間しかなかった。

俺は迷うことなく進んだ。

扉は閉まると、ゆらゆらと消えていった。

扉を通ると暗かったのが一転、明るくなった。そして目の前には白い服をきた女性がいた。

「来てくれましたね」

「俺の夢にでてたのはアンタか？」

「はい、私の名前はユナ。時空間を管理する神です。ここは時空間の狭間です」

驚いたな、まさか神様が正体なんて。

「で、その時空神が俺の一体なんの用が？」

最大の謎をぶつけてみた。

「実は、ある時空に歪みが発生しました。本来はありえないことなのですが、その歪みのせいで他の時空まで影響を及びます。私個人が介入するのは禁止なので、強い意思と願いを持ったあなたに来て

もらいました」

ヤバい、退屈していた俺が時空を救うだと？。最高だな。体がウズウズしてるぜ。

「そして貴方に力を授けます。創造と言う名の力を」

はい？.....

つてええ〜〜〜！マジで！

「創造ってつまり、頭で描いた物を具現化させるみたいな感じか！」

「概ねそんなものです。ただ、し慣れない内は疲労や頭痛があります。また強すぎる力も貴方にダメージを与えます。そのへんは注意してください」

「わかった、正しく使う」

内心はお祭り騒ぎだ。願いがこんなに叶うなんてな。

嬉しくて忘れていたが、もう一つの疑問があった。

「歪みの原因とは？」

「貴方もよくご存じの世界。リリカルなのは世界です」

神よ、俺は死んでもいい。

「時間帯はstrickersです。では、準備はいいですか」

「ああ！それと神様、ありがとうございます。退屈から抜け出せたのはあなたのおかげだ。絶対に歪みの原因を無くしてきてやる」

「はい。」武運を「

そして俺の体は光に包まれ、時空の狭間をあとにした。

プロローグ2 はじまりの鐘、旅立つ創造者（後書き）

次回は主人公設定です。

感想など待ってます！

## 主人公設定（前書き）

遅れながら設定です。

微チートになるかもです。

## 主人公設定

坂井 暁 さかい あきひ

能力：創造 クリエイト

身長：176cm

体重：62kg

年齢：18歳

好きなもの：料理、甘いもの、昼寝

嫌いなもの：権利で威張るやつ、辛いもの、

平凡な毎日に飽々していた高校3年生。だが時空の神ユナにより時空の歪みをただすため、原因であるなのは世界に送られた。

性格は少々暗いが、根は優しく、困った人を放っておけない。たまにアニメの有名な言葉をボソッと言う。

容姿は黒髪に灰色のメッシュがはいつていて肩の辺りまである。目は普段は黒いがクリエイト中は紅くなる。顔はかなりの美男子。だがアニオタなため彼女歴は無し。しかし天然ジゴロで恥ずかしい言葉をサラッ言う。

仮面ライダーは特に平成のときが一番らしい。  
創造の能力は、様々な力を具現化する。ただし完全にできないもの  
もあり、無敵ではない。

歪みの正体 (バジリスク)

全てが謎に包まれている時空を壊す存在。ユナ曰く実態はなく思念  
体の様なもの。

## 主人公設定（後書き）

創造の能力はリクエスト受け付けます。

では、感想などを待っています！



**第1部 魔導師の邂逅、力の発動（前書き）**

遅いうえにダメダメ……

精進します！

## 第1部 魔導師の邂逅、力の発動

光がやむと森のなかにいた。

「到着……………かな。なんか実感がないな」

あたりをみまわすが何も無い。

「神様もいい加減だな、機動六課の前に送ってくれば……………っ！」

直感でなにかを避ける。避けた方向を見てみるとガジェットがいた。

しかも、？型が数十機ぐらいいた。しかしいきなり攻撃してくるとは。怒りを感じつつもニヤリと笑う。

「初めての相手にしてはちょうどいいな。ありがたく思え、ガジェ  
ットども！」

そして、俺は一人の仮面ライダーをイメージする。手には携帯、腰  
にベルトが現れる。

迷うことなく俺は『555』押す。

『standing by』

「変身っ！」

『complete』

フォトンストリームがベルトから発し、体を覆う。光がおさまった  
そこには仮面ライダーファイズがいた。

カシアツと右手首を鳴らす。

そしてそのままガジェットの群れに突っ込んだ。

暁side out………

機動六課side in………

ここは時空管理局の地上部隊の1つ、機動六課。

その部隊長の机にいるのは一人の女性と妖精のようなのがいた。

女性の名は八神はやて。夜天の書の最後の王。

妖精の名はリインフォース

その隊舎内の部隊長の机にいるのは一人の女性と妖精のようなのが  
いた。

女性の名は八神はやて。夜天の書、最後の王。  
妖精の名はリインフォース？（ツヴァイ）、夜天の書の融合騎。

「はあ、今日も平和やな、リイン？」

「はいです」

仮にも部隊長がこんなにだらけきっていいのやら。

ちなみに出動したのはリニアの時だけで、それ以来ガジェットたちの反応がない。

先ほどリインとデスク・ワークを終えた所で、暇をもて余していた。

……………税金ドロボーではないようだ。

「どうしたですか、はやてちゃん？」

「いや、今ものすごく腹立つことを言われた気がしてな……………」

そんな感じて和んでいたが、

……………ビィー……ンッ！

警報が隊舎内に響きわたる。

「なにごとや!」

通信を急いでとるはやて。でてきたのはシャーリーことシャリオ・フィニーノ。

「八神部隊長、ガジェットおよびレリックの反応です!場所は、ここから約32km地点にある森林からです」

「了解や。なのはちゃん、フェイトちゃん」

そう呼ぶと、新たにモニターが2つ増える。それは10年来友達、高町なのはとフェイト・T・ハラオウンであった。

「さっそくで悪いんやけど、FW陣つれて現場に向かって。2人は先行してガジェットの破壊とレリックの回収をお願い」

「了解、はやて部隊長。スターズ部隊長高町なのは」

「ライトニング部隊長、フェイト・T・ハラオウン」

「「出動しますっ!」「」

敬礼をして、はやてをまつすぐ見る2人。  
そして、いまかと待っているヘリへと向かう。

「たのんだで、みんな……」

機動六課 side out……

暁 side in……

数十機いたガジェットだが、てんで話にもならない。パンチにキック、カウンター等戦いに必要な動作を自分なりに確認したが、かんに動いてくれる。そのおかげか、相手の攻撃も当たらないし、パターンも読めた。

いい加減あきてきたので、俺はベルトにあるファイズフォンととって横に曲げ、フォトンブラスターにして、『106』とおしてモードを変える。

『Burst Mode』

ビュウーン… ビュウーン… ビュウーン…

『103』の『Single mode』とは違い三連射できる。3回ほど撃って周りのガラクタの山にしていく。ふう、あとは10機だけだな。じゃあ最後はこれだ！

腰にあるファイズポインターをとり、ミッションメモリーを装着。それを右足につけ、『ENTER』おす。

ファイズフォンから『Excited Charge』が発せられ、

俺は体勢を低くしてフォトンブラットを待つ。

そしてフォトンブラットが注入され、上に跳んで、円錐状のポイントをガジェットを捕らえた。

そのまま宙で一回転して、『クリムゾンスマッシュ』を放つ。そのまま突っ込んで、ポイントしたガジェットだけでなく、残りのガジェットまでも破壊した。

ようやく終わった、と思ってこの場を離れようとするが、キラッと赤いものが視界の端で捕らえた。まさかと思って、近づくと『レリック』であった。

「なるほど、これでガジェットが……。ってことは……………」

と予感したら、むこうから来てくれた。これで探す手間が省けた。後ろを振り返るとそこには、管理局のWエースがいた。

「こちらは時空管理局です。武装を解除し両手をあげてください」

「ご丁寧にいつてくれるが、お前たちは『白い魔王』と『死神』に見えるぞ。どうしたものかと悩みながら、俺たちはであった。

**第1部 魔導師の邂逅、力の発動（後書き）**

てかなのはたち、しゃべってねえ！

次回は会話は多くなります

感想などを待っています！



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7680m/>

---

魔法少女リリカルなのはstrikers ~ 創造者の夢物語 ~

2011年10月7日15時02分発行